

高校教師の心得



第⑨回

校務分掌・サービス



監修
服部 次郎

(はっとり・じろう) 東京女子体育大学・短期大学教授。筑波大学附属坂戸高等学校教諭、同校長、筑波大学教授などを経て、2006年4月から現職。全国高等学校校長協会理事など公職を歴任している。

校務分掌とは

生徒から見える教師の仕事は、「教科指導（授業）」と「生徒指導（ホームルーム＝HR、部活動など）」ですが、教師の仕事はそれだけではありません。生徒には見えないところにも教師の仕事があります。例えば、時間割を組む、年間行事計画を立てる、進路相談室の資料を整えるなど、学校という組織体を維持・運営していくためには、教育活動以外の事務的な業務もたくさんあるのです。これらの仕事を教師が分担して行うことを校務分掌といいます。

教師によっては、「教科指導・生徒指導」の教育活動以外の、校務分掌による事務的業務を「雑務」と言って嫌がる人もいます。「雑務が多くて、教材研究ができない」などと嘆く教師がいるのも事実です。確かに、無駄な雑務はできるだけ省いて、教師が教育活動に集中できるような環境を整えることは大切ですが、現実的には教育活動以外の業務を全く無くすことはできません。校務分掌の仕事も学校を運営するための重要な仕事と考え、前向きに取り組むことが大切です。

校務分掌の組織

学科や規模の違いによって校務分掌の組織は異なりますが、基本となる組織は同じです（図参照）。まず教務部は、教科指導（授業）に関する事務の担当です。時間割の編成・運営、出張や休暇の教師の授業の振り替え、自習の連絡・監督、使用教科書の集約・注文、年間行事計画の立案、入学式・卒業式・体育祭・文化祭などの学校行事の統括、出席簿・学級日誌・指導要録などの諸表簿の管理など、学校の日常活動に不可欠な業務を担当します。

次に生徒指導部は、本連載の第4・5回で説明したような生活指導・HR指導・生徒会指導・部活動指導などの業務を行います。服装指導や巡回指導、問題行動指導など、生徒に嫌われる取り締まりなどの指導も中心になって行います。

そして進路指導部は、生徒の進学や就職を支援します。進路相談に必要な資料を整え、進路ガイダンスなどの行事を運営し、学生募集や求人のために来校する大学などの入試担当者や企業の人事担当者に対応します。そのほか、図書館を運営する図書部、保健衛生・環境整備などを担当する保健部、生徒募集・入試を担当する入試委員会などもあります。また、教師と職種は異なりますが、授業料徴収・予算管理・物品購入などに当たる事務部も校務分掌の一部です。

さらに、生徒に日々接して指導するHR担任は、同じ学年のほかのクラスの担任と連携して、学年会という組織を形成します。学年会は、1年生ではHR合宿、2年生では修学旅行などの学年行事を企画・運営します。

校務分掌の編成

学校では、毎年生徒は入学し、また、卒業していきますから、校務分掌の中心である学年会（HR担任団）は毎年編成され、また、毎年解散されます。さらに、公立学校では人事異動もありますから、校務分掌は毎年大きく変動します。

このような状況の中で校務分掌を適切に編成して、学校を効率的に運営していくことは校長

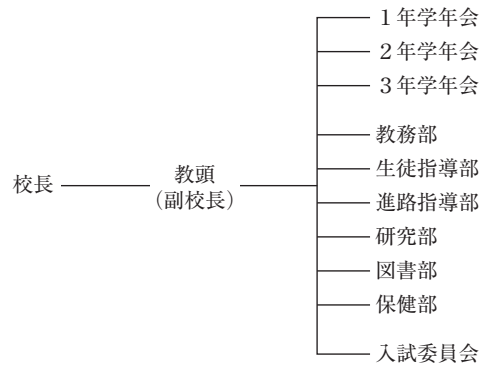
の重大な職務ですが、これはとても難しいことで、校務分掌の編成には、教師の不平不満の種が潜んでいます。というのは、分掌によって仕事量の多寡や難易度、好き嫌いに差は存在するものの、学校では企業のようにその差によって報酬や待遇が異なるということがないので、教師としてはできれば仕事量の少ない、比較的楽な、好きな仕事の分掌に就きたいと思うのはやむを得ないことだからです。いわゆる「雑務」はできるだけ少なくして教材研究に時間をかけたいと思うことは、教科指導（授業）の専門家である高校教師としては、必ずしも間違った考え方とは言えません。

校長としては、人材のバランスや負担の公平を考慮しながら、適材適所に教師を配置していくことになります。若い教師には、「若いうちの苦労は買ってでもせよ」というように、自ら進んで苦労を引き受ける気概を持ってほしいと思います。しかし一方で、若い教師こそできるだけ余裕のある分掌に配置して、教師としての第一の職務である授業の確立（教材研究）に取り組んでほしいと思うのも事実です。

教員の服務

職務に服することを服務といいます。教師の仕事をしていく上でも遵守しなければならない服務規定があります。まず、教育基本法第9条第1項では「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない」とあります。「法律に定める学校の教員」というのは、学校教育法第1条に定められている学校の教員ということですから、国・公・私立や校種の別を問わず、あらゆる学校の教員は、

図 校務分掌組織図（例）



公共の利益に奉仕するという崇高な使命を課されていると解されます。その上で、「職務上の義務」として、法令や上司の命令に従う義務、職務専念義務などが課され、「身分上の義務」として、信用失墜行為の禁止、守秘義務、政治的行為の制限、争議行為等の禁止、営利企業等の従事制限が課されています。

例えば、時々教師の不祥事が新聞をにぎわしますが、このとき不祥事を起こした教師は「信用失墜行為の禁止」という身分上の義務に違反した罪により、場合によっては懲戒免職などの重い処分を受けます。「人の道を教える」教師である以上、一般の人や民間企業の従事者以上に厳しく倫理的・道義的責任を問われることはやむを得ません。

教師は、その職業上、道徳的で謹厳実直でまじめでなければなりません。しかし、それはストレスのたまることです。そこで、上手に気分転換ができる上質の趣味を持つことをお勧めします。休日の山歩きや美術や写真などの創作活動、音楽鑑賞や観劇、また、ゴルフやテニスといったスポーツなど、上質の趣味による気分転換は、教師の正しい身の処し方として重要です。

★次回は高校教師として必要な研修を取り上げます。

Point!

- ①校務分掌の仕事は、学校運営のために重要。前向きに取り組もう
- ②教師には厳格な服務規程や社会的責任があることを深く自覚すること
- ③ストレス解消できる上質な趣味を見つけよう